

感染症発生動向調査

Infectious Diseases Weekly Report

2025年第13週 (3月24～30日)

(国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所)

●全数報告の感染症 (1～5類感染症)

(今週の報告数／累積。累積は2025年第1週から)

疾患名	報告数	累積
[1類]		
(報告なし)		
[2類]		
結核	250	3134
[3類]		
コレラ		3
細菌性赤痢		12
腸管出血性大腸菌感染症	21	316
腸チフス	1	7
パラチフス		1
[4類]		
E型肝炎	12	117
A型肝炎	2	36
エキノкокクス症		4
オウム病	1	3
回帰熱		1
コクシジオイデス症		1
重症熱性血小板減少症候群	1	2
チクングニア熱	1	4
つつが虫病	1	35
デング熱	1	39
日本紅斑熱		1
ボツリヌス症		1
マラリア		5
レジオネラ症	24	406
レプトスピラ症	1	1
[5類]		
アメーバ赤痢	7	112
ウイルス性肝炎 ¹⁾	2	50
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ²⁾	29	459
急性弛緩性麻痺 ³⁾		7
急性脳炎 ⁴⁾	10	183
クリプトスポリジウム症		5
クロイツフェルト・ヤコブ病	2	40
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	11	429
後天性免疫不全症候群	13	181
ジアルジア症		5
侵襲性インフルエンザ菌感染症	9	204
侵襲性髄膜炎菌感染症		20
侵襲性肺炎球菌感染症	77	1239
水痘(入院例に限る)	4	120
梅毒	161	3146
播種性クリプトкокクス症		39
破傷風	1	20
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	5	25
百日咳	578	4771
風しん		5
麻しん	11	58
薬剤耐性アシネトバクター感染症		4

1) E型肝炎およびA型肝炎を除く。2) 2023年5月26日よりカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症から感染症法上の名称が変更。3) 急性灰白髄炎を除く。4) ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

●定点把握の5類感染症

(「定点当たり」は報告数／定点医療機関数)

疾患名	報告数	定点当たり
インフルエンザ ⁵⁾	9093	1.85
新型コロナウイルス感染症	14354	2.92
RSウイルス感染症	3177	1.02
咽頭結膜熱	721	0.23
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5885	1.89
感染性胃腸炎	24790	7.95
水痘	926	0.30
手足口病	148	0.05
伝染性紅斑	2565	0.82
突発性発しん	656	0.21
ヘルパンギーナ	26	0.01
流行性耳下腺炎	115	0.04
急性出血性結膜炎	40	0.06
流行性角結膜炎	558	0.80
細菌性髄膜炎 ⁶⁾	14	0.03
無菌性髄膜炎	12	0.03
マイコプラズマ肺炎	136	0.28
クラミジア肺炎 ⁷⁾	1	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス) ⁸⁾	111	0.23
インフルエンザ(入院患者)	125	—
新型コロナウイルス感染症(入院患者)	1336	—

5) 鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ等感染症を除く。6) 髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。7) オウム病を除く。8) 病原体がロタウイルスであるものに限る。

●定点把握の対象となる5類感染症

(前週からの定点当たりの増減と多い地域)

疾患名	増減	地域
インフルエンザ	↓	長野、富山、沖縄
新型コロナウイルス感染症	↓	茨城、長野、山梨
RSウイルス感染症	↓	山口、鹿児島、大分
咽頭結膜熱	↓	福井、鳥取、三重
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	富山、茨城、北海道
感染性胃腸炎	↓	愛媛、大分、宮崎
手足口病	↑	山形、栃木、奈良
伝染性紅斑	↑	栃木、福島、富山
ヘルパンギーナ	↑	佐賀、長野、香川、熊本
流行性耳下腺炎	↑	茨城、千葉、青森
マイコプラズマ肺炎	↑	青森、富山、福井

◆麻しん

第1～13週に診断された麻しんの報告数(4月2日現在)は58例であり、2020～24年における各年の報告数を上回った。直近で最も報告数の多かった2019年以降は、新型コロナウイルス感染症の流行もあり低調であったが、本年は第8週から増加傾向にある。